

授 業 科目名	【Gカリキュラム】 プレゼミⅡ 【EFカリキュラム】 プレゼミⅡ	必修	開講年次	【G】1 【EF】1	単位数	【G】2 【EF】2
科目区分	専門科目：【G】教科及び教科の指導法に関する科目（-・-・-・-）／【EF】教科及び教科の指導法に関する科目（-・-・-・-）					
担当形態	単独	【G】教員の免許状取得のための（-・-・-・-）科目 【EF】教員の免許状取得のための（-・-・-・-）科目				
施行規則に定める科目区分又は事項等						
サブタイトル	社会に生起する様々な問題を、まずは興味を持って法学の観点から捉えられるように、学習していきましょう。	担当者	仲宗根 京子			
授業概要	<p>【概要】</p> <p>法学部の学生として学んでいくために必要な基礎的素養を身につけるための演習です。実際の社会の出来事や事例問題を、ニュースや映像などを通して、法律問題を身近に感じながら、問題解決のための法的思考の仕方を身につけていきます。</p> <p>また、法律科目の授業を受けるにあたっての注意点やノートのとり方、予習・復習の仕方、模範六法など（基本六法についての条文を解説付きで編集している本）の使い方、答案の作成方法等についても学んでいきます。</p> <p>【到達目標】</p> <p>自分の身の回りにある社会の現象から、法律学に興味を持てるようになること、法律学の習得に必要な基礎的素養を身につけること、法律学に関するテーマでの発表や議論に慣れること、を目標とします。</p>					
履修条件	特にありません。					
教科書・参考書	<p>【教科書】</p> <p>開講時に指定致します。また、レジュメ等の資料を毎回配付致します。授業には配付済みの資料を毎回すべて持参してください。</p> <p>【参考書】</p> <p>初宿正典他著『いちばんやさしい憲法入門（第5版）』有斐閣アルマシリーズ（有斐閣） 道垣内弘人『プレップ法学を学ぶ前に』（弘文堂、ISBN978-4-335-31312-7）</p>					
授業回数	授業内容					
授業内容	<p>【授業内容】</p> <p>このプレゼミⅡでは、商法・会社法という特定の分野に限らず、広く法学一般をテーマとする書籍・新聞記事や映像によるニュースを通じて、社会に生起する様々な問題を、法学の観点から捉える訓練をする事を目指します。</p> <p>【講義の進め方】</p> <p>第1回では、オリエンテーションおよび、まず、皆さんが、どのような法的な社会問題に感心があるのかについて、簡単なアンケートを致します。その際、自主的に発表して下さる方を歓迎致します。</p> <p>第2回～第3回では、社会に生起する様々な事例問題について、どのような視点で捉え分析することができるか、を講義致します。</p> <p>第4回～第7回では、各自興味をもった時事問題をピックアップして持ち寄り、それらについて受講者全員で議論します。</p> <p>その後、時事問題に関してグループ研究をしてもらい、第8回から第13回ではその成果を発表（プレゼンテーション）してもらいます（グループ決めは、第7回までに行います）。そのプレゼンテーションを受け、受講者全員で討論致します。</p> <p>【留意点】</p> <p>法律の学習の基本は条文が出てきたら必ず該当条文を六法で引くことですので、各自必ず持参してください（出版社は問わない）。</p> <p>この授業では現代ビジネスにおける法の役割を学習することを目標としていますので、日頃から新聞を読むなどして、社会でどのような企業活動が行われているのか関心を持つように心がけると良いでしょう。</p>					
予習復習内容	講義中にわからなかった用語を調べたり（もちろん、講義中、質問して解消できた方がいいですが）、学んだ法律事項に関連する条文を、六法で確認し、判例付六法であれば、関連判例をチェックすると、とても実力がついてくると思います。					
評価方法	出席率を含む積極的な授業参加態度（30%）と発表および理解度（70%）で評価致します。					
評価基準	上記授業内容について、これをよく理解し、適切に表現できた方は「S」または「A」とし、単元の内容についての理解や表現に不適切な点がある方はその程度に応じて「B」または「C」とし、単元の内容についての理解自体が不十分な方はその程度に応じて「D」または「E」と致します。評価不能な場合は、「F」と致します。					
その他	※G 刈：法【必修】 刈 ^o 【必修】 情【必修】／EF 刈：法【必修】 刈 ^o 【必修】 経【必修】					